

富岡製糸場の観光客による評価と課題について

前橋工科大学 学生会員 ○石井 麻貴
 前橋工科大学 学生会員 山本 祐之
 前橋工科大学 正会員 湯沢 昭

1. はじめに

江戸時代の末期に鎖国政策を終えた日本は、諸外国との貿易を始めた。当時の最大の輸出品目は生糸だったが、輸出の急増によって需要が高まったことにより、質の悪い生糸が大量に作られる粗製濫造問題が起きたため、日本の生糸の評判は下がった。そこで明治維新の後、政府は日本を諸外国と対等な立場にするために、産業や科学技術の近代化を進めた。その際の資金を集める方法として、生糸の輸出が最も効果的だと考えた政府は、生糸の品質改善・生産向上と、技術指導者を育成するために繰糸機械を備えた模範工場をつくることにした。それが富岡製糸場である。現在の富岡製糸場東繭倉庫を写真-1に示す。

群馬県内には絹産業の発展に寄与した施設は数多くあるが、代表的なものが4つある。1つ目は日本初の本格的器械製糸工場である富岡製糸場、2つ目は近代養蚕農家の原型である田島弥平旧宅、3つ目は近代養蚕法の開発とその教育を行っていた高山社跡、4つ目は県内最大規模の蚕種(蚕の卵)の貯蔵施設である荒船風穴である。その4つの施設を「富岡製糸場と絹産業遺産群」と呼び、世界遺産登録を目指す動きが近年高まっており、2012年の1月31日に「富岡製糸場と絹産業遺産群」の推薦書がユネスコ(国際連合教育科学文化機関)に提出され、2013年9月25日にはイコモス(国際記念物遺跡会議)による現地調査が行われた¹⁾。

2. 研究の目的

富岡製糸場を訪れる観光客数の推移や観光客の旅行形態を調査し観光客の現状を把握するとともに、観光客と地域住民の意見の比較を行うことや、類似している国内の世界遺産と富岡製糸場の比較を行うことにより、富岡製糸場の観光客を増やすためにはどのような対策が必要なのかを本研究において明らかにすることが目的である。



写真-1 富岡製糸場東繭倉庫(筆者撮影)

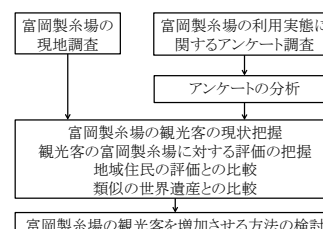


図-1 研究の流れ

表-1 アンケート調査の概要(観光客)

調査対象者	富岡製糸場への入場者
配布日	平成25年7月14日
回収期限	平成25年8月25日
配布方法	直接配布
回収方法	郵送回収
配布枚数	1,350票
回収枚数	276票
回収率	20.4%
調査項目	・個人属性 ・富岡製糸場への来訪理由 ・まちなかに対する満足度 ・富岡製糸場の価値 ・富岡製糸場への寄付金額

表-2 アンケート調査の概要(地域住民)

調査地域	富岡製糸場周辺地域
配布日	平成25年7月14、15日
配布方法	ポスティング
回収方法	郵送回収
配布枚数	1,500票
回収枚数	391票
回収率	26.1%
調査項目	・個人属性 ・富岡製糸場の現状 ・富岡製糸場周辺部の将来展望 ・富岡製糸場の価値 ・富岡製糸場への寄付金額

3. 研究方法

研究の流れを図-1に示す。まずは富岡製糸場の現状を把握する。また、富岡製糸場に来る観光客に富岡製糸場の利用実態に関するアンケート調査を実施した。アンケ

キーワード 富岡製糸場、世界遺産、観光客数

連絡先 〒371-0816 前橋市上佐鳥町460番地1 前橋工科大学工学部社会環境工学科

TEL/FAX 027-265-7362 E-MAIL:yuzawa@maebasi-it.ac.jp

ート調査の概要は表-1に示す。アンケート調査により得られた結果をもとに、富岡製糸場の現状の把握を行い、クロス集計、因子分析などの手法を利用して年代別、旅行形態別の富岡製糸場への情報収集手段や、来訪動機を把握し、さらに富岡製糸場の評価を観光客のものと地域住民のものとの比較する。富岡製糸場周辺の地域住民に対するアンケート調査の概要は表-2に示す。また、類似している国内の世界遺産と富岡製糸場の現状比較を行う。それらの内容や、得られたデータを踏まえ富岡製糸場の観光客を増加させる方法を検討する。

4. 研究対象地について

富岡製糸場が観光客に対して一般公開されたのは2005年10月からである。図-2に2006年度から2012年度までの入場者数の推移を示す。富岡製糸場が世界遺産暫定リストに登録された2007年度に、入場者数は前年度と比較して2倍以上に跳ね上がった。しかしそれ以降入場者数に大きな変化はなかったため、群馬県は県内に残る絹遺産や周辺観光地を巡る観光ルートなどを作成することにより入場者数の増加を目指した結果²⁾、2012年度には過去最高の28万7千人の年間入場者数を記録した。入場者数に対する団体客の割合は、年が経つにつれて多くなり、現在では団体客と個人客の割合が6:4とほぼ等しくなっていることがわかる。団体客の割合が増えたことは、富岡製糸場が観光地として世間に浸透したことを意味すると思われる。

図-3は2012年度の月別の入場者数の推移を示したものである。個人客は8月と10月、11月が多く、団体客は10月と11月が多い。8月にはお盆があり、普段仕事をしている人も、まとまった休みを取ることができるため旅行のついでに富岡製糸場を訪れると考えられる。10月、11月は行楽シーズンで、気候的にも過ごしやすいため、人々の外出が促進されると考えられる。そのため、団体ツアーのプランも多く組まれ、団体客も多くなっていると推測される。

図-4に団体ツアーの出発地における都道府県別の割合を示す。ここで割合が1%未満の都道府県はまとめて、その他とした。出発地としては東京都が最も多く、次いで群馬県、埼玉県、と関東地方の県が名を連ねている。これらの要因として、東京都の人口が多いことからツアーが組みやすいということ、高速道路などの利用により都内近郊からのアクセスが容易であることなどが考えられる。

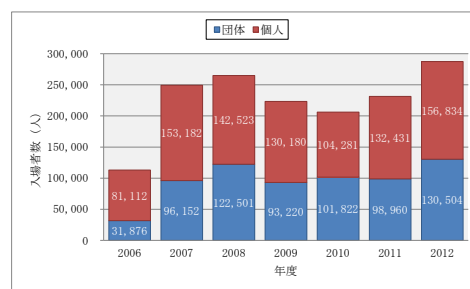


図-2 富岡製糸場の入場者数(経年変化)

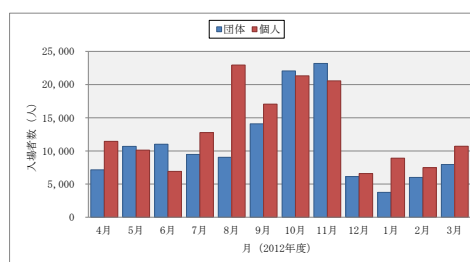


図-3 富岡製糸場の入場者数(月別:2012年度)

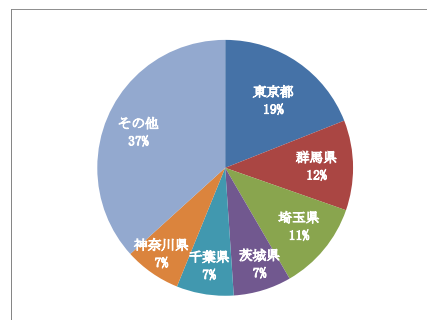


図-4 団体ツアー出発地の都道府県別割合(2012年度)

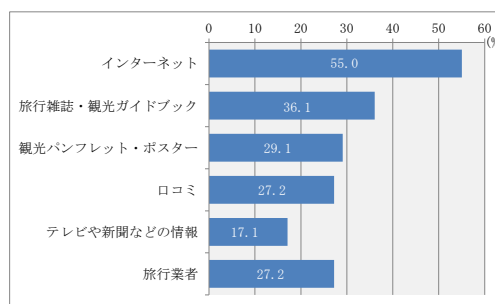


図-5 旅行計画の際に利用した情報(複数回答)

5. 研究結果

(1) 富岡製糸場への来訪について

人々が旅行や外出の計画を立てるときに行うこととして、行き先を決めるための情報収集、行き先の決定、移動交通手段の決定などが挙げられる。そこで、旅行を計画する際に利用した情報、富岡製糸場を訪れた理由、移動交通手段の順に分析を進めた。

図-5は回答者が旅行を計画する際に利用した情報を示したものである(複数回答)。インターネットを利用した人が55.0%と最も多く、テレビや新聞などの情報を利用

した人が 17.1%と最も少なかった。旅行雑誌・観光ガイドブックを利用した人が、インターネットを利用した人の約 3 分の 2 であることから、わざわざ本を購入しなくても気軽に利用できるインターネットでの情報収集が主流になりつつあることがわかる。テレビや新聞の情報を利用した人が少なかったことから、全国放送や全国紙で富岡製糸場が取り上げられることがほとんどないということが推測される。そこで富岡製糸場に関する情報をインターネットやテレビ、新聞などで流すことができれば、観光客に情報が行き渡ると思われる。

図-6 は回答者が富岡製糸場を訪れた理由を度数分布で表しまとめたものである。歴史的・文化的に貴重な施設であるからという理由が 76.8%と最も多く、過去に来たことがあるからという理由が 4.8%と最も少なかった。歴史や文化に興味があったからという理由も 66.7%と 2 番目に多かったことから、教科書や小説、映画などで取り上げられた富岡製糸場に興味を持ち、訪れるに至ったことがわかる。過去に来たことがあるという理由が最も少なかったことから、富岡製糸場を再び訪れたいと感じる観光客が極めて少ないことがわかる。

図-7 は富岡製糸場に来たときの交通手段の分布である。自家用車を利用してきた人が 73.3%と最も多く、路線バスを利用してきた人はいなかった。自家用車を利用してきた人が多かったのは国道 18 号線や上信越自動車道が富岡製糸場の付近を通っているため、交通の便が良いからだと思われる。

東京駅からの料金と時間を鉄道と自動車とで比較してみると、鉄道では約 2 時間で 5,770 円(新幹線と上信電鉄利用の場合)³⁾、自動車では 1 時間 45 分で 4,393 円となる(土日で ETC が車載されている場合)⁴⁾。土日であれば鉄道を利用した場合より、時間や料金が少なくなることがわかる。

(2) 富岡製糸場の価値について

富岡製糸場には大きく分けて 4 つの価値がある。工場制度的価値、建造物的価値、歴史的価値、そして生産システムの価値である。詳細を図-8 に示す。観光客や地域住民から見ても、富岡製糸場に同様の価値あるといえるのか、またそれらの価値の重要度に、観光客と富岡製糸場に密接して暮らしている地域住民との差があるのかを分析する。

表-3 は富岡製糸場を見学してどのようなことが重要だと感じたかという質問に対する回答を、観光客のものと

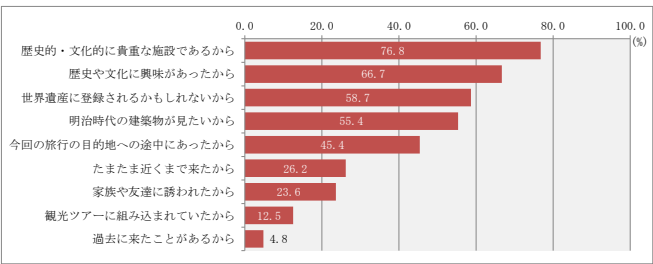


図-6 富岡製糸場を訪れた理由

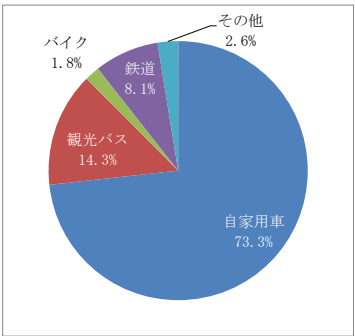


図-7 富岡製糸場までの移動交通手段

工場制度的価値	女子教育の先駆け	労働規約の先進性	全寮制の導入	
建造物的価値	木骨煉瓦づくり	創業時の貴重な施設	日本技術との融合	ヨーロッパ建築技術
歴史的価値	産業育成の拠点	全国展開の役割	製糸業の技術普及の原点	
生産システムの価値	最先端の西洋技術の導入	機械製糸業の発展に寄与	下水道の整備	

図-8 富岡製糸場の価値

表-3 富岡製糸場の価値(観光客、地域住民)

項目	因子1	因子2	因子3	因子4
女子教育の先駆け	0.867	0.244	0.263	0.205
工女の労働時間などの決まりが先進的	0.795	0.231	0.289	0.231
工女が全寮制で共同生活	0.757	0.312	0.217	0.300
環境面からも評価される施設	0.520	0.292	0.235	0.483
日本人技術者の優劣さを伝える施設	0.457	0.449	0.198	0.438
明治初期の木骨煉瓦造りの建築	0.246	0.761	0.407	0.141
建築物はヨーロッパ建築の技術を今に伝える	0.277	0.727	0.219	0.338
洋式と日本の技術を融合させた施設	0.308	0.651	0.270	0.392
創業時の建造物が残る貴重な施設	0.286	0.593	0.503	0.130
日本の製糸業の技術普及の原点	0.215	0.267	0.821	0.247
明治初期の産業育成の拠点	0.229	0.264	0.768	0.183
工女が富岡製糸場で習得した技術を広める	0.408	0.312	0.569	0.217
機械製糸業の発展に寄与	0.426	0.337	0.323	0.619
繰糸器など当時の西洋の最先端の技術を導入	0.391	0.322	0.386	0.586
固有値	3.351	2.835	2.674	1.783
累積寄与率	23.93%	44.18%	63.28%	76.02%
因子名	工場制度的価値	建造物的価値	歴史的価値	生産システムの価値

地域住民のものを合わせて因子分析した結果である(回答は 5 段階評価、1:重要ではない、2:あまり重要ではない、3:何とも言えない、4:多少重要である、5:重要である)。表-3 と図-8 を比較すると大きく分けた 4 つの価値に差はないことがわかる。つまり、観光客や地域住民から見ても富岡製糸場の価値は同様であるといえる。

図-9 は表-3 の因子分析における因子得点を用いて観光客と地域住民との 2 群の平均値の差の検定を行った結果を示したものである。図-9 から明らかのように、5%有意水準において、建造物的価値と生産システムの価値に有意差がみられることがわかる。全体的に地域住民の方

が富岡製糸場の価値を高く評価しているが、歴史的価値においては観光客の方が高く評価している。これは前述したように、富岡製糸場を訪れようと思った主な理由に重点をおいて見学したことが原因だと思われる。工場制度的価値や、建造物的価値、生産システムの価値も伝えられるような見学方法を検討することが必要であるといえる。

(3) 富岡製糸場の今後について

日本国内には現在 17 の世界遺産が存在する。表-4 に日本国内の世界遺産の一覧を示す。富岡製糸場が世界遺産に登録された場合、今後の観光客数はどう変化していくのかを予測し対策を検討するために、国内にあり富岡製糸場と同様に文化遺産で、産業遺産である石見銀山と比較する。

石見銀山は島根県のほぼ中央に位置する大田市大森町を中心とした旧温泉津町、旧仁摩町を含めた現大田市の広い範囲に広がる遺跡で、その範囲は 3 つに分けられ、「銀鉱山跡と鉱山町」「石見銀山街道」「港と港町」からなる。16 世紀に世界で流通した銀のおよそ 3 分の 1 が日本の銀であり、さらにそのほとんどが石見銀山で産出されたものであった。石見銀山の特徴は、自然を破壊せず環境に配慮した「自然環境と共存した産業遺跡」である。

図-10 は富岡製糸場と石見銀山の年間入場者数を表したものである。石見銀山の年間入場者数のピークは 813,200 人(2008 年)で現時点での富岡製糸場における入場者数のピークの 2 倍以上である。しかし、2012 年には観光客数は 432,200 人にまで落ち込んでいる。このことから世界遺産登録による観光客の増加は一過性のものになりやすいことがわかる。

日本の人口が減少し始めたことを考えると、観光客が再び訪れたいと思う場所にしなければ観光客は減少していくといえる。観光客に対して実施したアンケートの自由記述に見学の際のガイドの説明が人によって違うとあった。富岡製糸場の価値の伝わり方が変化してしまうため、4 つの価値が平等に伝わるように統一するべきである。また、座繰りなどの体験コーナーを設置したり、四季折々の景観を宣伝したりして、何度も訪れたいと思えるような、そして実際に何度来ても楽しめるような場所にする必要がある。

6. まとめ

富岡製糸場の観光客の現状として入場者数は増加傾向にあり、個人客の割合がやや高く、関東から来る観光客

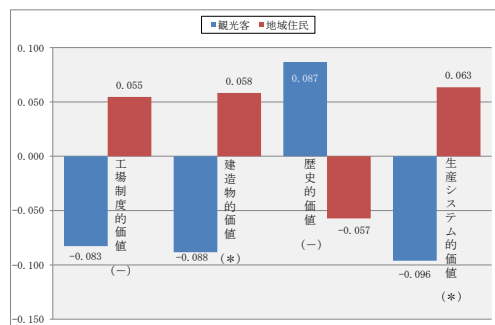


図-9 富岡製糸場の価値における重要度(観光客、地域住民)

表-4 日本の世界遺産

名称	所在地	分類	登録年
1 法隆寺地域の仏教建造物	奈良県	文化	1993年
2 姫路城	兵庫県	文化	1993年
3 白神山地	青森県・秋田県	自然	1993年
4 屋久島	鹿児島県	自然	1993年
5 古都京都の文化財	京都府・滋賀県	文化	1994年
6 白川郷・五箇山の合掌造り集落	岐阜県・富山県	文化	1995年
7 原爆ドーム	広島県	文化	1996年
8 厳島神社	広島県	文化	1996年
9 古都奈良の文化財	奈良県	文化	1998年
10 日光の社寺	栃木県	文化	1999年
11 琉球王国のグスク及び関連遺跡	沖縄県	文化	2000年
12 紀伊山地の霊場と参詣道	三重県・奈良県・和歌山	文化	2004年
13 知床	北海道	自然	2005年
14 石見銀山遺跡とその文化的景観	島根県	文化	2007年
15 小笠原諸島	東京都	自然	2011年
16 平泉の文化遺産	岩手県	文化	2011年
17 富士山	山梨県・静岡県	文化	2013年

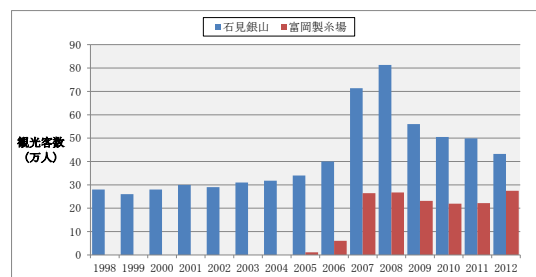


図-10 富岡製糸場と石見銀山の観光客数の推移

がほとんどである。観光客が観光地についての情報を得る手段としてインターネットが主流であるが、そのほかにテレビや新聞で富岡製糸場についての情報を流すことも効果的であると推測できる。また課題として観光客は富岡製糸場に歴史や文化を求めて訪れるが、見学によってそれ以外の価値があることもわかるような見学方法を検討すれば、富岡製糸場の観光客の増加につながると思われる。

参考文献

1) 富岡製糸場世界遺産推進ホームページ

<http://www.tomioka-silk.jp/hp/index.html>

2) 群馬県 企画部

<http://www.pref.gunma.jp/contents/000160470.pdf>

3) Google マップ - 地図検索

<https://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&tab=w1>

4) 高速道路料金・ルート検索 | ドラぷら

<http://www.driveplaza.com/dp/SearchTop>